

○人のみさをも、一番生は、圓内へ右足から五歩で二廻轉しながらゆき、終りに左足を後にあげ、兩手を前から上にあげる。二番生は、右足からバランスを二回しながら、其の場で右へ一廻りする。この時、兩手を右に動かす、次に左に動かす。

○かくてこそ。一番生は、「かくて」の時左足を前に出し、兩手を前からおろしてひざまづき、「こそ」で靜かに立上りながら、兩手を前から上にあげて胸をそらす。終りに兩手を稍開く。二番生は、「かくて」の時右足を前に踏み出し、體重をこれにかけ、兩手を前から上にあげて體をそらし、「こそ」で兩手を側から下ろしながら靜かにひざまづく。

(三)注意

リズムを十分に理解させ、優美な協同的動作によつて行はせる。

寧樂の都

(一)準備 全生を一列圓形とし、十人位の組に分け、各組二の番號をつける。

(二)動作

一

前奏として 一小節——四小節

初の二小節で、靜かに手を取り、右に向きながら左足を後にひいて蹲む。次にその姿勢のまま靜かに聽く。

○奈良のみやこのそのむかし、靜かに立上りながら體重を右足にかけ、次第に體を起して胸を張り、右斜上方を見る。

○みやびつくして宮びとの、左足から圓周に沿うて右へ軽く膝を屈げ前にあげながら六歩進み、「の」で手を離し、左足を交叉して右へ廻轉して、圓心に向き、更に手をつなぐ。

○遊びましけん、龍田川原の、左足から左へ前同様七歩進み、「の」で右足を交叉して廻轉し圓内へ向く。

○紅葉、右足を前に出し左足を後にあげながら手を取り、靜かに前に出し、次に後にかへすと共に體重を左足に移し右膝を屈げて軽く前あげる。

○たつたがはらのもみぢば、今もにほふ。各組は一番生が先頭になり、右足から六歩の軽いポルカステップで右へ半廻轉しながら進み、圓内へ小圓を作る。此の際兩手は掌を下にして、ポルカステップ一步毎に、あがる足と反對側の側へ移す。

○ちしほの色に。兩掌を下にして斜上にあげながら圓周に沿うて右足を前に出し、左足を後にあげる。「の」で左足をおろし右斜をまげて靜かに前にあげながら兩手を左側に移す。「い」で左手を上にあげ、右手を側にして右足



を側に出し左足を後にあゝて右へ一廻轉する。「ろに」左足を前に出し右足を後にあげながら右手を上左手を側にする。

○のこるかたみは、圓の外向となり、兩手を右斜後で軽く上下に動かしながら、右足から小圓をときつゝ元の圓に前進する。

○千代もくちせず、圓の内向となり、兩手を左斜後にして、前の動作をしながら進む。

○今かいまかと、君をまつらん、「のこるかたみは千代もくちせず」と同じ動作で進み全く元の圓にかへる。

○その紅葉。右足を前に出し、手をつなぎながら次第に腰をおろす。

二

○ふるきみやこのそのむかし、櫻かざしておほきみの、あそびましけん滋賀の花園。「奈良のみやこのそのむかし、みやびつくして宮びとの、あそびましけん龍田川原の」の動作に同じ。

○はなさき、右足を圓心に出し、左足を後にあげながら兩手を體前で交叉して上にあげ、次に側からおろし、最後に左斜下に移しながら左足を後におろし、右膝を屈げて軽く前あげる。

○しがの花ぞの、花さき、今もにほふ。「たつたがはらの紅葉、今もにほふ」に同じ。但し此の際ポルカステップ一步毎に、あがる足と反對の手を上、他の手を前にする。



○色香を、一番生は右足から圓内へ三步前進し、右足に體重をかけながら、兩手を前から頭上に圓くあげる。

○そへて、一番生は靜かに兩手を側におろす。同時に、二番生は右足から三步前進しながら、兩手を前から上にあげ、側におろして互に手を隣生の肩におき、終りに兩生共體重を左足に移す。

○ゑめる姿は、ちよもかはらず。前の姿勢のまま、胸をそらして、右足を側に出し、左足をその後ひいて、

兩膝を屈げる動作をしながら右へ進む。

○今やいまやと行幸まつらん、「ゑめる姿は、ちよもかはらず」と同じ動作を左へ行ふ。

○その花は。右足を左足の前に交叉して次第に腰をおろし、體を伏せる。

(三)注意

輕快優美な動作によつて、古き都の往時を追懷させる。

秋の夕暮

(一)準備 一列圓形を作り、圓心に向く。

(二)動作

一

○花や紅葉も、靜かに兩手を側から上にあげると同時に、右膝を屈げて前にあげる。次に「いゝも」の時、右足

を交叉しておろし、體重を之にかけて膝を屈指、同時に兩手を前から右に移しながら眺める。

○およぶものかは、前の動作を反對に行ふ。

○浦のとまやの、互に手を取り、右足から圓周に沿うて右へ歩く。

○秋のゆふ、右足を前に出して體重をかけながら、右手を上左手を前にあげる。

○ぐれ。左手を上、右手を前にしながら、右足を後にひく。

一一

○こころなき、兩足尖で右に半廻轉すると同時に、兩手を右後下におろしながら、頭を右にして蹲む。

○身も、立ち上りながら、左膝を屈げてあげ、互に手をとる。

○あはれしれ、連手を靜かに上にあげながら、左足から三步圓内へ進み、左足に體重をかけて體を反らす。

○とや、連手をおろしながら、右足から四歩後退し、左足に體重をかけ、右足を後にひく。

○鴨たつ澤の、「浦のとまやの」と同じ。

○あきの夕、右足を前に出し、體重をかけながら、靜かに兩手を側から上にあげる。

○暮。左足を前に交叉して、膝を屈げると同時に、兩手を側におろし、右上を眺める。

三

○あはれさびしや、「あはれ」で、兩足尖で右に半廻轉し、「さびし」の時は兩手を自然にし、左足から三步で一廻轉しながら、圓周上を左にゆき、終りに體重を左足にかけて、兩手を左肩の高さにあげ、次に「や」で體重を右足に移しながら、兩手を右斜下へおろす。

○色はなけれど、兩手は自然のまゝにし、左足から五歩で二廻轉しながら、圓周上を左にゆき、終りに兩手を左肩の高さにあげ、次に、互に手を取りながら、右足を後にひく。

○楨たつ山の、「浦のとまやの」に同じ。

○あきの夕ぐれ。右足を前に出し、體重をかけながら、次第にかむむ。次に「ぐれ」の時、靜かに體を起して上を見る。

(三)注意

靜かな團體的動作によつて秋の夕暮の感じを出させる。

三 行進遊戯

象

(一)準備 自由に配列させ、各々體を前下に屈指、兩手を組んで下に垂れさせる。

(二) 動作

一小節——二小節(四呼間)

両手の力を抜いて象の鼻とし、ブラ／＼と動かす。

三小節——七小節(十呼間)

両手で兩足首を握つて、左足から二呼間に一足づゝのそり／＼と歩く。

八小節(二呼間)

尙、一步進み、立止つて鼻を任意の方向に上げる。

九小節——十小節(四呼間)

象の動作を任意にする。

以上を繰返して行ふ。

(三) 注意

イ、自然に受け入れた象の感じを、出来るだけ如實に現はして動作する。

ロ、土地の情況により、牛や馬などにかへてもよい。

友さがし



(一)準備 列圓形に並べ、互に向き合せる。

(二)動作

一小節(四呼間)

(1)兩手で軽く服をうつ。(2)拍手する。(3)相手と兩手をうち合はす。(4)は休む。

二小節(四呼間)

一小節の動作に同じ。

三小節(四呼間)

(1)拍手し、(2)相手と左手をうち合はし、(3)再び拍手し、(4)相手と右手をうち合はす。

四小節(四呼間)

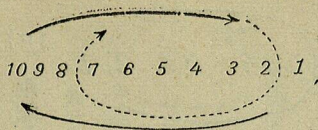
(1)(2)(3)互に兩手を打合はす。(4)休む。

反覆

一小節——四小節(十六呼間)

一小節から四小節までの動作を繰返す。

五小節——八小節(十六呼間)



各々左向いて、左足からランニングステップで前進し、終りに新しい相手と向合つて止る。
 以上を繰返して行ふ。

(三)注意

- イ、曲の後半はスキップで行つてもよい。
- ロ、快活無邪氣に行はせる。

縫ふてゆく

(一)準備 十人位を一組として一直線に並べ、互に手をつながせておく。

(二)動作

(イ) 一方から順に縫ふ。

一番生が先頭となり、曲に合わせて軽いランニングステップで、上圖のやうに九、十番生の連手の下をくぐつて、元の方向にかへる。此の時九、十番生は、その場で駈歩足踏をしてゐる。

そして八番生までくぐり終れば、二人は後向きになり、連手を體前で交叉させる。次に先頭は七、八番生の間をくぐり、六番生がくぐり終れば、二人は連手を交叉して後向となる。かやうにして全部後何となつて縫ひ終る。

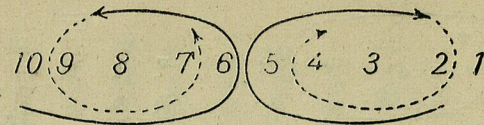
解き方は、先頭が二番生との連手の下をくぐつて、初めの方向に向き、両手の交叉を解き、次に三、四番生、五番生といふ順に、縫ふ時と反対に解いて、元の一直線にかへる。

(ロ) 両端から同時に縫ふ。

一番生と十番生が先頭となり、五、六番生の間をくぐり、終りに五・六番生は後向きとなり、連手を體前で交叉させる。次に一番生は四、五番生の間、十番生は六、七番生の間をくぐり、終りに四、七番生は連手を體前で交叉して後向となる。全生が同方向に向くまでつゞけ、解く時は両端から互に先頭になりながら、隣生との連手の下をくぐつて元の方向に向き、一直線となる。

(三) 注意

- イ、協同的動作によつて、團體的訓練をする。
- ロ、先頭をかへて行つてもよい。
- ハ、伴奏のある間は、常に動いてゐるやうにする。



かたつむり

(一) 準備 十五人位を一組とし、互に手をつながせる。

(二) 動作

一小節——二十三小節(四十六呼間)

一番生が先頭となつて、渦巻行進する。

二十四小節(二呼間)

全生後向になり、蹲んで前生の肩に両手をかける。この時、先頭は両手を握つてかたつむりの角のやうに斜上にあげる。

一小節——二十四小節(四十八呼間)

蹲んだまゝで、先頭の進む方向に渦巻を解く。

(三) 注意

イ、子供の經驗を生かし、最も自然的に無邪氣に行はせる。

ロ、匍ひ出す方は、伴奏曲を緩やかにする。

ハ、文部省唱歌「かたつむり」を唱はせながら行ふもよい。

私のまね

(一) 準備 一列圓形の側面向とし、圓内にリーダー一人を入れておく。

(二) 動作

一小節——四小節（十六呼間）

圓周に沿うて左へ、リーダーは圓内を自由に行進する。

五小節——八小節（十六呼間）

次にランニングステップで進む。

九小節（四呼間）

初めの音で、全生圓内を向くと同時に、リーダーは何かの眞似をする。次の音で、全生はリーダーの眞似をする。

(三) 注意

イ、行進及び駈歩の結合練習に依り、リズム訓練をする。

ロ、快活な精神と注意力とを養ふ。

ハ、リーダーになる子供の表現をなるべく自由にして、拘束しないやうにするがよい。

シ ー ソ ー

(一) 準備 三人を一組として直線に並べ、左から三の番號をつけておく。

(二) 動作

一小節——四小節(八呼間)

二番生は手を側に伸ばしてシーソーとなり、一番生と三番生とは、向き合ひ、両手で二番生の手を持つ。二番生は、左から交互に二呼間に一回づゝ體を側に屈げる。一番生と三番生は、自分の持つてゐる二番生の手の高さにつれて、交互に膝を屈げ、次に伸ばす。

五小節——八小節(八呼間)

三番生は、二番生と片手を取り、同じ方向に向つて立ち、一番生は、スキッピングステップで二番生の前から連手の下をくぐつて三番生の後を通り、右側に出て並ぶ。

九小節——十二小節(八呼間)

三番生が中央になり、一小節から四小節までと同じ動作を行ふ。

十三小節——十六小節(八呼間)

二番生が、五小節から八小節までの動作をして右端に行く。

十七小節——二十小節(八呼間)

一番生が中央になり、一小節から四小節までの動作を行ふ。



第二編 各 論

二十一小節——二十四小節（八呼間）

三番生が五小節から八小節までの動作をして右端に行く。

二十五小節——三十二小節（十六呼間）

三人が連手して小圓を作り、スキッピングステップで左へ二度廻轉する。

(三) 注意

イ、協同的動作の訓練をする。

ロ、位置をかへる時は、二人の前を通つてもよい。

ハ、シーソーになつた者は手を真直に保ち、體を真側に屈げる。

こ と ろ

(一) 準備 四人を一組とし、其の中一人を鬼とし、他の者は番號をつけて鬼と向き合はせる。二・三番生は互に手を前の者の肩にかける。

(二) 動作

一小節（四呼間）

一番生以下三人は、左足から左へ三步ランニングステップし、次に右足を後にあげ、左足でホップ

する。鬼は右足から右へ同様の動作をする。

二小節（四呼間）

前の動作を反対の方向に行ふ。

三小節——四小節（八呼間）

各生とも、左足から側へ交互にバランスを行ふ。

一小節——四小節（十六呼間）

一小節から四小節までの動作を繰返す。

五小節——八小節（十六呼間）

ランニングステップ、又はスキッピングステップで自由な方向へ逃げる。この時鬼は、二、三番生の何れかを捕へる。一番生は、後の二人をかばつて鬼の邪魔をする。

捕へられた者が鬼となつて、始めから繰返して行ふ。

(三)注意

イ、在來の子とろから來た一種の鬼ごつこで、協同動作の訓練をする。

ロ、快活無邪氣に行はせる。



ハ、五小節から八小節までは、出来るだけ自由にする。

ご 挨拶

(一)準備 二列圓形に並べ、相手と向合はせる。

(二)動作

一小節——二小節(六呼間)

左足を側に出し、右足を揃へながらおじぎをする。

三小節——四小節(六呼間)

前の動作を右へ行ふ。

五小節(三呼間)

外圓生は掌を上にし、両手を前にさし出す。

六小節(三呼間)

内圓生は両手を相手の手にのせる。

七小節——八小節(六呼間)

二人は両手を軽く上下に動しながら踵の上下をする。

一小節——八小節（二十四呼間）

二人は先頭の方に向き、體前で右手と右手、左手と左手をとり、圓周に沿うてスキッピングステッ
プで進む。

(三)注意

イ、おじぎをする所で人を換へてもよい。

ロ、二人づゝ自由に行はせてもよい。

ひきくら

(一)準備 十人を紅白の二組とし、互に手をつないで向き合せ、兩組とも先頭から番號をつけておく。

(二)動作

一小節——四小節（八呼間）

紅組は左足から四歩前に出て、四歩後にさがる。

五小節——八小節（八呼間）

前の動作を白組が行ふ。

一小節——八小節（十六呼間）

兩組の一番生は四歩前進し、次の八呼間で互に手を取り、ひきくらをする。次の四呼間は負けた者は相手の方へつれてゆかれ、勝負のつかぬ時は引き分けとなる。此の間、他の者は拍手をしてゐる。次に曲が二回繰返される間に前の動作を繰返し、今度は二番生が出てひきくらをする。同様にして五番生まで同じ動作をし終つた後、更に一曲の間圓形を作り、左にスキッピングステップで廻る。

(三) 注意

イ、競争的遊戯をリズムによつて行はせ、定められた呼間に必ず勝負を終る。

ロ、元氣に行はせる。

鬼ごっこ

(一) 準備 二人組を作り、互に内側の手をとらせる。

(二) 動作

自由の方向へ行ふ。

一小節——六小節(十八呼間)

左足からランニングステップ三步で前に進み、四歩目は大きく跳んで前に兩足で止り、二呼間休む。

この動作を二回続ける。



七小節——八小節（六呼間）

鬼になる者は前と同じ動作をし、他はランニングステップを六呼間續けて前に進む。従つて二人は前後に離れる。

九小節——十六小節（二十四呼間）

三呼間に一回づゝ兩手を前から交叉して上にあげ、側からおろしながら軽いランニングステップで鬼ごっこを行ふ。

(三) 注意

鬼ごっこをリズム的に行はせる。

かげぼうし

(一) 準備 自由に配列する。

(二) 動作

一小節（四呼間）

手を腰にとり、影を後にし、兩膝を軽く屈げて、左足から四歩前進する。

二小節（四呼間）



次に六歩小走にて前進し、終りに一回軽く跳んで後を向いて止まる。

三小節（四呼間）

二小節と同じ動作をする。

四小節——五小節（八呼間）

第一步を踏みつけ、ツーステップで左足から左へ一廻りする。

六小節（四呼間）

頭上に高く手を組み、踵をあげて八歩小走りに前進する。

七小節（四呼間）

蹲んで、出来る丈小さくなる。

八小節——九小節（八呼間）

蹲んだまゝ四回跳ぶ。

十小節——十二小節（十二呼間）

自由の方向に歩く。

(三) 注意

